



## 古きをたずねて新しきを知る

「温故知新」の精神で、オフセット印刷の原点に立ち返ってみる。すると、固定化した視点が見落としていた新鮮な表現、常識という名のもとに忘れていたアプローチが見えてきた……。オフセット印刷の再発見を試みた田中氏に、今回のトライアルについて話を伺った。

田中竜介



——制作コンセプトをお聞かせください

「温故知新」がテーマです。オフセット印刷による新しい表現の可能性を探していく際に、全く新しいことに挑戦していくのもひとつの手ですが、今まで自分が歩いてきた道や使ってきた技術、方法をもう一度振り返ってみるのもひとつのアプローチかな？と考えました。これまで見落としてきたものはないか、今まで当たり前だと思っていたことでも実験によって新しい価値を発見できたら、そこから何か新しい表現が生まれてくる、と。

——「温故知新」ですか？

温故知新とは「古きをたずねて新しきを知る」という意味ですよ。なぜか僕はどちらかというと古いもの、例えば活版印刷のような、そういう昔の印刷表現に魅力を感じています。古本屋にある洋書のような雰囲気って好きなんです。だから、今回のトライアルも、オフセット印刷の基本を今一度検証することで、そのなかから何か未来に繋がる新しい技法、手法、表現が獲得できればいいと考えました。

——その考え方はとても新鮮ですね

新しい表現を模索するときに、活版の発明から現在にいたる印刷技術の進歩を踏まえて少し未来の印刷を予測するより、後ろを振り向いてそこから行きたいというのがあるんです。本当は活版でB0サイズのポスターをつくりたいと思っているぐらいです。現実的には難しいと思うし、実現できたとしても工芸品になってしまうと思いますが、もし活版でポスターをつくることができたら楽しいですよ。オフセット印刷も現在はデータ入稿が主流ですが、少し前までは版下やフィルムによる指定入稿の時代でした。こんな風にちょっと昔に戻ってみてから前に進みたかったんです。逆に言うと、知らないことの中なかから新しい何を探し出す術がわからないということでもあるけれど。

——オフセット印刷ということで特に意識したことはありますか

普段はあまり深く考えずにプロセス4色で印刷していますが、そうじゃないやり方もあるんだ、という「気付き」のきっかけになることがしたかった。たとえば同じ色を印刷するにしても、4色の掛け合わせは当然ながら、3色で刷るのか特色で刷るのか、また、白い色も、紙地の白もあればインキの白もあります。印刷線数や紙のテクスチャーによっても仕上がりが違ってきますよね。同じ絵柄を入稿したとしても、その表現方法はたくさんある。その差が一目でパッとわかって、ちょっと新鮮な気持ちになれるようなことをやりたかったんです。実際にやってみたら、今までやりたいと思ってはいても、なかなか実行

できなかったことを実験することができました。たとえば線数を粗くするというトライも、今まで実現できなかったことのひとつです。でも、これでひとつ事例ができたので、これからどんどん使えます。自分の持っている技術の枠が広がって、その量が少しずつ増えていく感じがしています。

どこか懐かしさを覚える心地よい世界感をつくりだす田中氏。

彼はデザインと印刷の現在を独特の視線で捉えていた。

——田中さんの仕事を見ていると、風合いや心地良さをとても大事にしている感じがします

体温を感じるものがないと思ってデザインしています。新しいピカピカの家より、ちょっと中古の使い古された家の方が好きなんです。建物は古いけど庭には綺麗な花や草が生えている、人の存在を感じることができる方が落ち着くし、魅力を感じます。どうもそういう性質らしいです。なので、風合いや手触りは非常に好きな要素ですね。ポスターは触るものではなく見るものですが、それでもポスターを手で触った時のような気分を視覚で表現したいと思っています。今回のポスターで使った紙も、こうした感覚で選んでいます。手触りというのは紙の持っている3次元の要素です。僕は印刷物は2次元ではなく、3次元のものとして考えたいといつも思っています。でも、そうは言っても3次元として認識するのは難しいので、その要素を引き出すためにちょっとおおげさに汚れをつくったりして、3次元を強調しています。紙って薄いけれど、そこには必ず厚みがある。その奥行きや、さわり心地を表現したいからです。

——汚れのつくり方も含めて、田中さんの入稿原稿の複雑さには驚きました

簡単なようでいて、実は複雑で超ハイテクです。コンピュータのパワーをフルに駆使しています。これだけのスペックがなければここまでの解像度のデータを操ることはできません。印刷技術が今ほど良くなかった時代や、コンピュータの性能がまだ低かった頃の印刷物の曇り気をつくりたかったんです。クラシカルな表現をつくるためにコンピュータのパワーをフルに使った、ということですね。本当は当時の技術や方法で制作できればいいのですが、残念なことにそれができません。でも逆に最新のテクノロジー（コンピュータの能力）を駆使すれば、いろいろとコントロールが効きます。数年前につくった作品では、イラストのラフな線を1本1本レイヤーにしています。一発で上手なイラストを描ければそれに越したことはないけれど、そんな技量がないので、イラストの線を自由に調整できるようレイヤーにしたんです。コンピュータが高性能だから実現できた表現ですね。



Mme.CIRQUE  
ポスター



minä perhonen  
DM

Works by Tanaka Ryusuke



ozone  
ロゴタイプ



東芝「SED」  
コンセプトブック

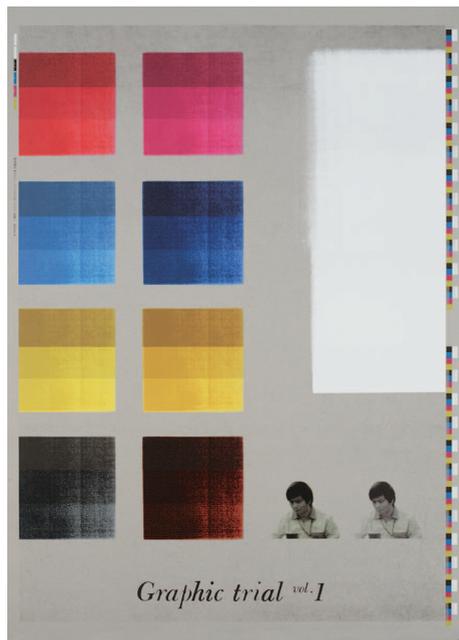
——最後に、田中さんにとってオフセット印刷とはどういうものですか

正直に言うと、僕は印刷方式は何でも構わないと思っています。カラーコピーでもインクジェットでもシルクでもいい。僕にとってはいくつかあるペンみたいな存在です。だからどの印刷方式が好きかではなく、表現をするときに最適と思われる方式や扱いやすい方式を、その都度、予算や媒体、表現内容等のバランスの中で選択しているだけです。自分で選べない時には印刷会社さんに「この印刷方法が一番合っていますよ」と教えてもらったりしています。でもこのトライアルに参加して、「オフセット＝4色」と決め込んでいた自分自身に気がきました。今回このトライアルに参加して得た一番の収穫は、オフセット印刷というペンだけでも、意外と表現の幅をつけられるんだな、いろいろできそうだな、と思えたことです。今までオフセット印刷というペンは1本だと思っていましたが、実は何種類もあったことに気付いた、そんなトライアルになりました。

## ■ スタッフより

田中氏の作品は、そのシンプルな見かけとは裏腹に、オフセット印刷の構成要素が巧妙に組み込まれています。まずは白の表現。通常は紙白をそのまま生かす方向で白を表現しますが、今回は色紙にオベークホワイトで印刷してどこまで白が表現できるかに挑戦しました。それから色紙の色を、プロセス4色で印刷する試みも行いました。このテストでは、単純な掛け合わせで表現するだけでは元の紙の表情がなくなってしまうため、紙をスキャナーで入力し、カラーチャートを参照しながら色紙の色を表現しました。なかでも面白かったのは粗い線数の印刷テストです。私たちの出力機では65線までの線数しか出力できません。そこで、65線で出力した小さな印刷物をスキャナーで拡大入力して、擬似的にもっと粗い線数による印刷を表現することにしました。最終的にはB5サイズの印刷物をB1サイズまで拡大して、15線相当の印刷物に仕上げました。良く見ると網点を網点でつくっていることに気付くと思います。このように、オフセット印刷の基本をもう一度振り返るととても興味深いトライアルになりました。

## 多様なオフセット印刷表現の比較



### 1 色紙に オパークホワイト+プロセス4色 で印刷した色調を確認

ベージュ系の色紙に田中氏が作成したオリジナルチャートを印刷。ベタ部分のインキののり具合やオパークホワイトの色合い、色紙の色がどのくらい印刷部分に影響を与えるかなどを確認した。

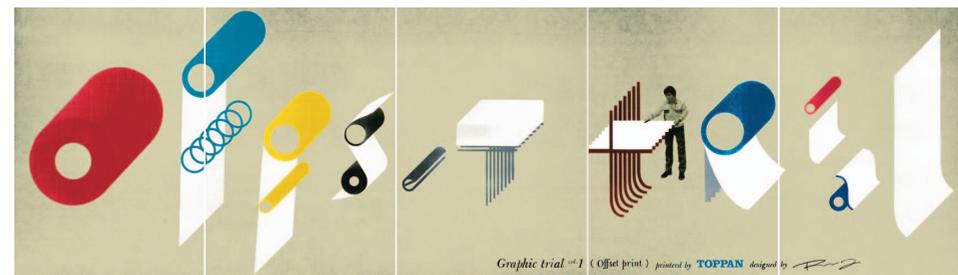
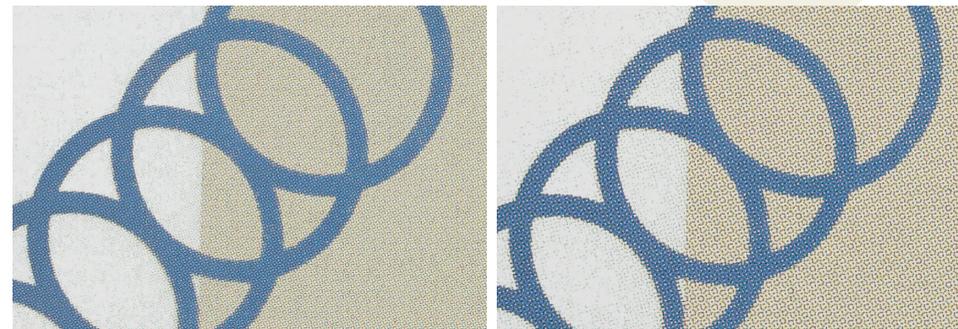
### 2 白い紙に プロセス4色 で印刷した色調を確認

白い紙に前回のテストで選んだ色紙の色をチャートと一緒に印刷。色紙に印刷したオパークホワイトと紙白部分の色合いを比較し、よく似た色合いの白い紙を選んだ。

### 大きな網点

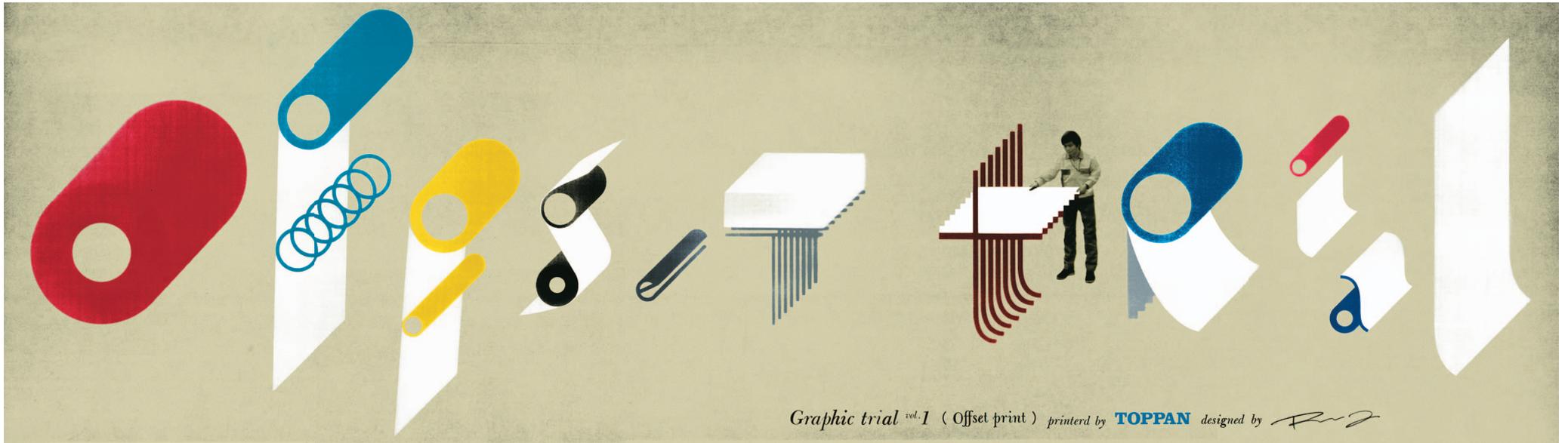
小さな印刷物をスキャナーで拡大入力して、擬似的に大きな網点を表現したテスト。30線相当と15線相当の印刷物を作成して比較した。

3



### 4 仕上がり

オフセット印刷の工程をイメージした「offset trial」のイラストで構成された5枚続きのポスター。田中氏らしい遊び心あふれるユニークなデザインに仕上げられている。5枚のポスターは、それぞれ紙、色数、印刷線数を変えられており、多様なオフセット印刷の表現が比較できる仕組みになっている。



a

b

c

d

e

*Graphic trial* <sup>vol.1</sup> ( Offset print ) printed by **TOPPAN** designed by *RJZ*

- a. 用紙：タント S-8 四六判 100Kg 版の構成：プロセス 4 色
  - b. 用紙：タント S-8 四六判 100Kg 版の構成：プロセス 4 色 ※ 15 線相当の表現
  - c. 用紙：NT ラシャ / うもれぎ 四六判 130Kg 版の構成：オベークホワイト→プロセス 3 色 (CMY)
  - d. 用紙：タント S-8 四六判 100Kg 版の構成：プロセス 3 色 (CMY)
  - e. 用紙：NT ラシャ / うもれぎ 四六判 130Kg 版の構成：オベークホワイト→プロセス 4 色
- ※展示作品は仕様が異なる場合があります